

白糠町身体障害者福祉協会白糠分会が誕生したのは昭和27年4月13日。今年で70周年を迎えた。その白糠分会で事務局長を務めているのが濱野則子さんだ。「70年という歳月を迎えることができたのは、私たちを支えてくださった方々のご理解とご協力があったおかげです」と濱野さんは感謝する。

濱野さんは白糠中学校を卒業後、釧路市内の医院に就職した。

「私が学生の頃は経済的に苦しくて、中学校の修学旅行も自分で我慢をして行きませんでした。高校にも『行かせてほしい』と両親に

頼めば、行かせてくれたと思います。ですが、妹も弟もいましたし、自分は働いた方がいいのだろうと、子どもながらに思ったんです」

釧路市内の医院に8年務めた後、縁があって町内の医院や病院に勤務。現在は特別養護老人ホーム清和園で介護の仕事をしている。

「誰かのために役立つ仕事が好きな人だと思います。そういう性格だからかもしれません、前会長の笹實さんから『身体障害者福祉協会の事務局をやってもらえませんか』と声をかけられました」

濱野さんが身体障害者福祉協会白糠分会の会員となったのは平成

19年。今年で15年目になる。

「自身の経験が生かせるならばと、事務局を引き受けましたが、本当に分からないことが多く、現会長の石田正義さんにはたくさん助けていただきました。今も事務局を務めているのは、石田会長のおかげです。何も恩返しはできませんが、これからも自分の置かれた立場で精一杯できることを頑張りたいと思います」

濱野さんは、障がいと障がいのある人に対する理解を、町内にもっと深めていきたいと話す。

「たとえば同じ下肢障害がある方も困っていることは人それぞれ違います。ほんの5cmの段差でも転んでしまう方がいるのです。階段が緩やかでも幅が狭いと登れない人がいますし、スロープがあっても傾斜が急だと登れない人もいます。手すりも階段の真ん中にあればいいのですが、たとえば左側にしかついていなければ、左手しか使えない人は、帰りは後ろ向きで階段を降りなければなりません。そんな怖いことはないですよ。今年、町内に福祉タクシーが導入され、会員の方々はとても喜んでいました。特に女性の運転手さんが気を使って、優しくしてくれるという話を聞きました。障がい者が住みやすい町は高齢者にとっても住みやすい町だと思うのです。そういう町には、支えてくれる人たちが多くいるのではないのでしょうか。ともに生活している中で、困っていることがあれば、それをきちんと聞いて、私たちができることを丁寧に進めていく。そういうことが大切だと思います。白糠町も少しずつですが優しい町になってきたと感じています」

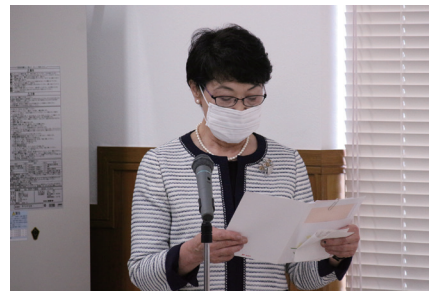
濱野則子

はまの のりこ

1947年3月19日生まれ。白糠町出身。白糠中学校卒業後、釧路市内の医院で通信教育を受けながら看護の仕事をする。現在は特別養護老人ホーム清和園通所介護に勤務。2人の息子を育て、現在は夫との2人暮らし。趣味はわんちゃんの散歩と読書。



「自分の置かれた立場で、精一杯できることを頑張りたい。」



5月28日、白糠振興センターで開催された釧路地区身体障害者福祉協会白糠分会創立70周年記念式典で、祝電を読み上げる濱野さん。